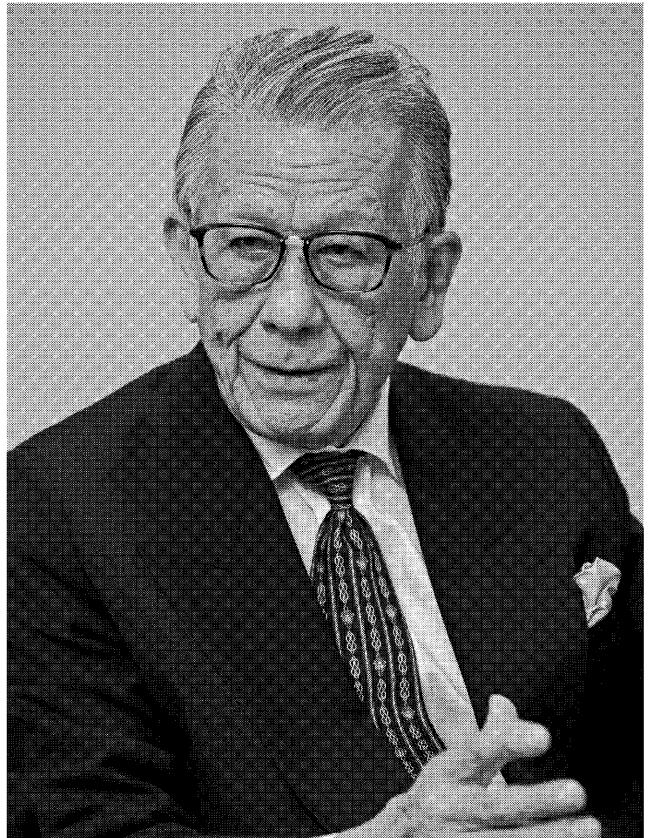


一つの時代は終わるが、歴史は踊る

Haruna™ ハルナビバレッジ株式会社

社長対談

ペットボトル飲料分野で躍進を続けるハルナビグループ。創業者の青木清志名誉会長は、時代の先を読む経営の実践を通じて顧客ニーズを着実につかみ、安定成長の礎を築きあげてきた。昨年、終結から100周年を迎えた第一次世界大戦から現代の国際情勢を読み解き、かの歴史が繰り返されると警鐘を鳴らす。日刊工業新聞社の井水治博社長が聞いた。



ハルナビバレッジ名譽会長
青木 清志 氏

■歴史を直視する

井水 昨年11月に、第一次世界大戦終結100周年式典がパリで開かれました。どういった感想をお持ちですか。

青木 式典には世界60ヶ国が出席しました。詳細はあまり伝えられていませんが、それでもいくつか気になりました。自分が、それでもいかに小さく思われておられたのか。それが、なぜか自分たちこそ「魔」ではないか、と呆れました。印象的なシーンでした。印象的なシーンでして、ドイツのメルケル首相がどうも複雑な顔をしている。ドイツは当時、ヴェルサイユ条約による巨額の賠償金(現代の260兆円相当)支払いを迫られ、鉄鋼業が盛んなルール地方、バグダッドへの鉄道敷設の権利を失いました。多くの国民が困窮して兵隊となり、ナチスを生んだ経緯があります。おそらくメルケルは、「魔の再来」など

近東などで起き続けているテロリストの問題を正面からとらえ、マクロンは和解の言葉を口にするべきでした。単純な祝い事、100年経ったのでしょう。安全保障に関しても同様で、あるいはどこかにかつての英連邦の懐を抱いているのかもしれません。豪州、ニュージーランド、カナダ、米国との安全保障の連携に、日本を加えようとしています。

日本は政治、経済、そして安全保障のプロトクルの中に唯々諾々と入っていくとする。アジア諸国との連携をどう考えているのか。経済と政治は別物と見ていいのでしょうか。他国はどう思っているのでしょうか。第一次・第二次世界大戦を経て、戦後は金融の時代になりました。ロスチャイルドとロックフェラーの争いが、19世紀から20世紀の間でいついました。しかし、2008年のリーマン・ショック以降、ロスチャイルドとロックフェラーの金融崩壊しました。そのときのロックフェラーの損失は4000兆円ともいわれます。時代を同

ど口にするマクロンは世界の懸念を抱きました。

リーダーにはならないと

井水 フランスではデモが

井水 フランスではデモが